

山形県の野菜・その現状と将来展望

山形県園芸特産課

専門技術員

北川 守

1 はじめに

平成3年の山形県の農業粗生産額は約2,988億円であり、その半分は米で基幹作物となっている。しかし、米の生産額は以前より低下してきている。本県はよく村山、置賜、最上、庄内と大きく4地域に分けられる。地域により農業形態に相違があ

り、最上、庄内では米のウエイトが60%以上と高く、村山では果樹の生産額(38.6%)が最も高くなっており、米は28.6%と他の3地域に比較し極端に低くなっている。

本県の野菜の生産額は米、果樹、畜産に次ぎ、農業粗生産額に占める割合は13%ほどとなっている。

2 山形県の位置と気象

山形県は東北地方の南西部に位置し、西は日本海に面し、東は奥羽山脈、南は飯豊産地、北は鳥海山などで宮城、福島、秋田県と県境をなしている。県の南部を源流とする最上川は米沢、山形、新庄の盆地を縦走し、庄内平野を通り日本海に注ぐ。日本海沿岸には約8,000haの日本三大砂丘の一つである庄内砂丘が広がっている。

本県の気象は内陸地方と日本海に面する庄内地方に大別される。内陸地方は一般的に盆地型気象で気温の日較差、季節変化が大きく、乾燥傾向を示す。米沢、新庄盆地は多雪地帯で、山形盆地の山形市周辺は少雨、少雪である。庄内地方は日本海の影響を受け、海洋性気候を示し、多雨、多湿、

表1 農業粗生産額

(億円)

年次	合計	米	麦・雑穀 豆類	いも類	野菜	果樹	花き	工芸 農作物	種苗・苗木 その他	畜産	加工 農産物
昭和50年 (割合%)	2,747	1,629 (59.3)	7 (0.2)	15 (0.5)	183 (6.7)	336 (12.2)	4 (0.1)	64 (2.3)	26 (0.9)	433 (15.8)	3 (0.1)
55 (割合%)	2,942	1,633 (55.5)	19 (0.6)	13 (0.4)	231 (7.9)	350 (11.8)	7 (0.2)	68 (2.3)	21 (0.7)	556 (18.9)	2 (0.1)
60 (割合%)	3,358	1,903 (56.6)	28 (0.8)	12 (0.4)	295 (8.8)	459 (13.7)	10 (0.3)	61 (1.8)	18 (0.5)	551 (16.4)	1 (0.0)
平成3年 (割合%)	2,988	1,453 (48.6)	24 (0.8)	13 (0.4)	388 (13.0)	570 (19.1)	28 (0.9)	28 (0.9)	23 (0.8)	450 (15.1)	1 (0.0)

多照で気温の日較差が小さく、冬季間は北西の季節風が強い。

3 野菜の生産状況

本県にはきゅうり、だいこん、かぶ、かぼちゃなど地方在来種が多く残っていることから、品目によっては古くから栽培されていたことが伺われる。しかし、産業としては山形市周辺などの都市近郊の地場販売が主体で、対外的に産地として発展してきたのは新しいといえる。

平成3年の野菜作付面積は約12,500ha、収穫量は約24万5千t、出荷量は約15万3千t、粗生産額はいも類を含め約400億円となっており、生産額は増加傾向にある(表1, 2)。

1) 山形県の野菜主要品目

本県の野菜で生産額が最も大きいのがすいかであり、平成3年の生産額は約46億円となっている。作型はトンネル早熟栽培が主体であり、出荷期は7月下旬から8月中旬である。すいかについては、東京都中央卸売市場へのお荷量も上位の位置を占め、本県の数少ない銘柄品目といえる。最近では、選果施設の導入により出荷調整作業の省力化が図

表2 山形県主要野菜の生産動向

	61年	62年	63年	元年度	2年度	3年度	3年/61年	主産地（3年実績）	
きゅうり	栽培面積 (ha)	809	794	786	787	777	748	92	山形(224ha), 村山(24)
	生産量 (t)	23,200	24,700	25,300	25,200	24,300	22,000	95	尾花沢(32), 最上(76)
	同上全国順位	第15位	第13位	第12位	第12位	第12位	第13位	—	鶴岡(33), 朝日村(19)
	粗生産額(百万円)	2,760	2,908	3,254	3,502	4,054	4,269	155	櫛引町(30)
トマト	栽培面積 (ha)	346	335	312	299	277	273	74	山形市(42ha)
	生産量 (t)	17,800	15,900	14,300	12,700	12,100	10,400	58	南陽市(17), 鶴岡市(20)
	同上全国順位	第16位	第17位	第17位	第20位	第21位	第22位	—	白鷹町(12)
	粗生産額(百万円)	1,372	1,238	1,222	2,004	1,946	1,907	139	高島町(7)
なす	栽培面積 (ha)	871	867	854	843	833	828	95	山形市(118ha)
	生産量 (t)	14,400	14,700	14,300	14,500	14,400	12,000	83	酒田市(51)
	同上全国順位	第16位	第15位	第15位	第14位	第14位	第15位	—	鶴岡市(50)
	粗生産額(百万円)	2,306	2,309	2,533	2,780	2,900	2,946	128	米沢市(49)
いちご	栽培面積 (ha)	292	280	275	251	220	190	65	酒田市(75ha)
	生産量 (t)	2,570	2,630	2,610	2,370	2,170	1,780	69	山形市(50)
	同上全国順位	第26位	第26位	第25位	第26位	第29位	第31位	—	鶴岡市(12)
	粗生産額(百万円)	1,417	1,517	1,449	1,491	1,332	1,153	81	
すいか	栽培面積 (ha)	1,280	1,300	1,320	1,290	1,300	1,330	104	尾花沢市(566ha)
	生産量 (t)	42,100	46,300	47,500	47,000	49,100	37,800	90	村山市(274)
	同上全国順位	第7位	第6位	第5位	第4位	第3位	第6位	—	大石田町(187)
	粗生産額(百万円)	3,207	3,427	3,812	5,413	6,265	4,624	144	
露地メロン	栽培面積 (ha)	686	745	779	835	911	974	142	酒田市(370ha)
	生産量 (t)	12,200	15,800	16,000	17,700	19,200	19,200	157	鶴岡市(241)
	同上全国順位	第7位	第7位	第6位	第5位	第4位	第4位	—	遊佐町(122)
	粗生産額(百万円)	2,263	2,989	3,282	3,620	3,827	4,329	191	
はくさい	栽培面積 (ha)	634	611	580	571	553	541	85	山形市(79ha)
	生産量 (t)	20,200	20,500	18,300	18,700	18,200	16,300	81	米沢市(34)
	同上全国順位	第20位	第18位	第20位	第19位	第19位	第19位	—	南陽市(31)
	粗生産額(百万円)	643	741	861	863	914	1,158	180	
せいさい	栽培面積 (ha)	466	463	465	467	473	454	97	山形市(78ha)
	生産量 (t)	20,300	20,000	17,700	19,300	19,800	14,700	72	米沢市(29)
	同上全国順位	第1位	第1位	第1位	第1位	第1位	第1位	—	村山市(29)
	粗生産額(百万円)	946	972	1,336	1,150	1,105	1,581	167	南陽市(28)
だいきん	栽培面積 (ha)	1,510	1,440	1,380	1,330	1,300	1,270	84	酒田市(136ha)
	生産量 (t)	55,300	54,600	50,100	47,400	46,800	42,900	78	鶴岡市(74)
	同上全国順位	第17位	第17位	第17位	第19位	第15位	第19位	—	遊佐町(104)
	粗生産額(百万円)	2,182	2,253	2,451	2,372	2,931	3,144	144	山形市(136)
ばれいしょ	栽培面積 (ha)	716	717	722	727	716	673	94	酒田市(61ha)
	生産量 (t)	15,600	16,600	17,300	17,200	16,000	12,700	81	山形市(36)
	同上全国順位	第21位	第19位	第18位	第18位	第19位	第21位	—	遊佐町(30)
	粗生産額(百万円)	1,016	1,190	1,063	1,022	1,034	1,137	112	鶴岡市(27)
野菜計	栽培面積 (ha)	12,616	12,644	12,651	12,556	12,539	12,484	99	
	生産量 (t)	283,567	291,686	282,370	281,620	281,300	245,400	87	
	同上全国順位	—	—	—	—	—	—	—	
	粗生産額(百万円)	27,433	29,533	32,119	36,152	39,100	40,085	146	

(「山形農林水産統計年報」より、かんしょ、ばれいしょを含む)

られている。また、選果施設の効率的利用を図るため、作期の拡大が試行されている。一方、軽量であること、収穫期が早いことから小玉すいかの作付けの増加がみられる。しかし、平成5年の冷

夏による作柄の不良、販売の伸び悩みから、平成6年には新たな産地の展開が予想されるところである。

すいかに次いで生産額の多いのがメロンである。



写真1 すいかの栽培



写真3 アンデスメロンのハウス栽培



写真2 すいかの選果



写真4 アールスメロン

メロンの生産額は約43億円と年々順調に増加している品目である。作型はハウス、トンネル早熟栽培から抑制栽培と広い。中でも、アンデスを主体とするトンネル早熟栽培が最も多く、7月から8月中旬の出荷となっている。また、2年ほど前から赤肉系メロンのサンデーレッドが導入され、作付けが伸びている。抑制メロンでは、アールスメロンが主体で、この作型は本県の気象条件を生かし、高収益を目指したものである。現在の品種はアールスナイト夏系2号が主体であり、出荷期は9月から11月となっている。

次ぎに多いのがきゅうりであり、メロンとほぼ同じ約43億円となっている。作型はハウス促成から抑制栽培と冬期を除き生産されている。中でも、面積が最も多いのが露地夏秋栽培である。きゅうりについては、全国的な傾向と同様で、収穫労力などの点から横ばいからやや減少傾向にある。

以上が本県の実産額の多い3品目であるが、本



写真5 地域特産野菜の食用ぎく

県の特徴的なこととして特筆できるものが、地域特産的野菜が多いことである。食用ぎくがその代表品目であり、施設化や品種の組み合わせによりほぼ周年的に生産されている。その他、おかひじき、山形せいさい、赤かぶなどがある。

2) 地域別野菜の生産状況 (図1参照)

①村山地域

村山地域でも山形市，寒河江市，天童市などは県内でも積雪量が少なく，冬季の日照も多い地域で，野菜の施設化が進んでいる地帯である。品目はきゅうり，トマト，メロン，食用ぎくなど産地化が図られている。最近，生産の伸びが著しいのが露地のねぎである。ねぎについては，収穫時の労力調整や長期出荷による産地銘柄を確立するため，新作型の試行により，定着化を狙っている。

村山地方の北部は多雪地帯であるが，尾花沢市，村山市，大石田町にすいかの一大産地を形成している。全国的に重量野菜が減少する中，産地の発展に努力している地域である。

②最上地域

最上地域は多雪地帯で未利用地が多く，県内でも野菜生産が最も少ない地帯である。しかし，近

年は野菜の生産も伸びてきており，夏秋きゅうりの指定産地にもなり，今後，飛躍が期待される地域である。きゅうりの他，にら，夏秋トマトの産地化が進んでいる。また，冬季のうど，根みつばなどの取り組みも行われている。

③置賜地域

置賜地域は一部の地域を除き，野菜の生産が少なかったが，置賜広域で夏秋トマトが指定産地になるなど動きが大きい。中でも，米依存度の高かった地域でもハウスの導入などが進み，最上地域と同様，今後の産地化が期待される。現在の主な品目はきゅうり，すいか，おかひじき，食用ぎく，なす，アスパラガスなどである。

④庄内地域

庄内地域の野菜生産は砂丘地が中心となっている。砂丘地は電化が進み，かん水が容易になってから野菜産地として目覚ましく発展した地域である。主な品目はメロンを筆頭に，メロン後のだいこんやいちご，ねぎなど県内でも野菜の主要産地の一つである。砂丘地でも施設化が進み，メロンの作期も拡大し，銘柄産地としての強化を図っている。砂丘地以外の土畑では，転作を利用したねぎの栽培が拡大している。また，鳥海山の山麓開発が進行中で，今後の野菜産地化が期待されている。

4 野菜の将来展望

以上，本県の野菜生産の概要を述べたが，簡単にまとめてみると以下ようになる。

①本県の野菜生産はすいか，メロンを除けば

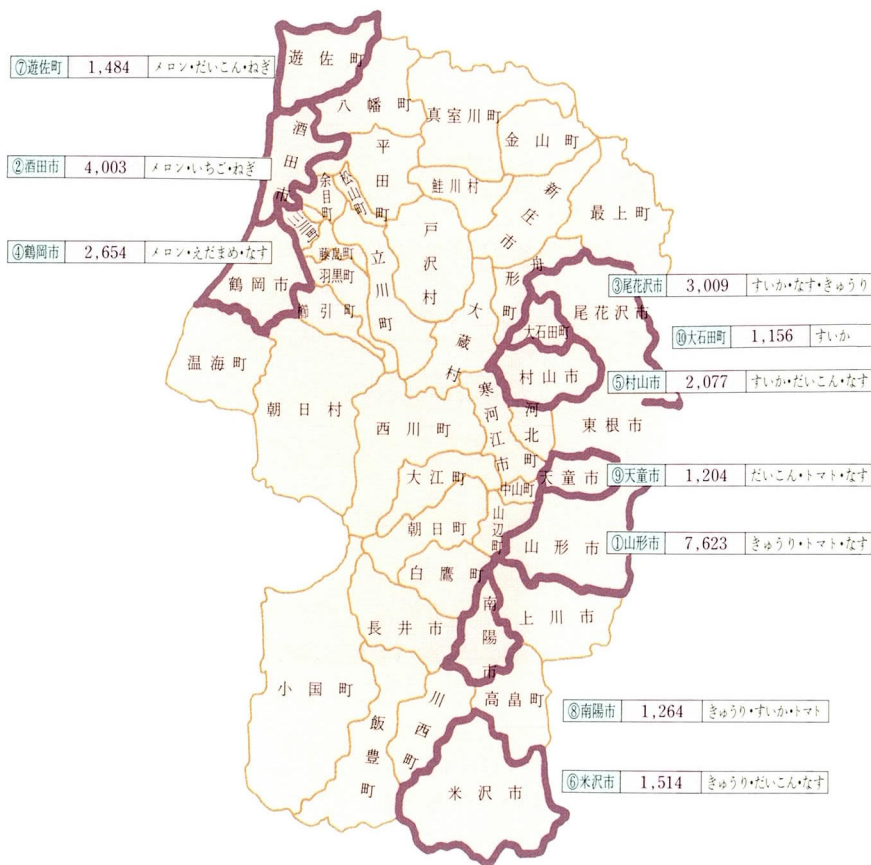


図1 県内の野菜生産額ベスト10

順位市町村 生産額(百万円) 主な品目

産地規模が小さく、生産量が少なく、出荷期間が短い。

②地理的要因も大きいですが、夏秋野菜が中心で、中でも果菜類の比重が高い。

③地域特産的な山形オリジナル品目が多いことなどである。

これらの本県の野菜生産の実態と全国的に野菜の生産量が減少傾向にあること、さらには、輸入野菜が増加している実態などを踏まえ、県産野菜の振興を図る必要がある。

それには、山形の地域に適した品目の選定と、地域協力による長期出荷の体制を整えることであろう。また、作業の省力化、分業化による低コスト化を図ること。さらには、労働環境の整備、作柄安定のための施設化の推進、冬季にも就農可能な品目の選定と推進に

よる周年就労型農業の確立が必要である。

そこで、本県では「園芸やまがた1,500億円達成運動」を展開中である。他県においては、野菜単品だけで、1,500億円を優に突破している県もあるが、本県では、果樹、野菜、花き、特用作物を含めて努力しているところである。この事業は、県内を先の4地域に分け、地域ごとの振興品目を決め、補助事業の導入を図り、作柄の安定と産地化を図ろうとするものである。

野菜の当面の目標は平成12年に600億円達成を目指しているところである(表3参照)。

表3 野菜推進計画

	平成元年			平成8年			平成12年		
	作付面積 (ha)	生産量 (t)	粗生産額 (億円)	作付面積 (ha)	生産量 (t)	粗生産額 (億円)	作付面積 (ha)	生産量 (t)	粗生産額 (億円)
合計	12,556	283,156	362	12,800	311,500	500	13,000	330,000	600
果菜類	5,980	137,884	225	6,220	156,800	325	6,370	168,300	391
すいか	1,290	47,000	54	1,360	57,700	85	1,400	61,300	102
露地メロン	835	17,700	36	1,100	24,100	63	1,200	26,900	79
いちご	251	2,370	15	210	2,200	18	200	2,200	20
きゅうり	787	25,200	35	750	24,600	44	730	25,200	50
トマト	299	12,700	20	295	14,300	29	310	16,000	36
えだまめ	581	5,750	14	590	6,300	19	600	7,000	24
スイートコーン	347	3,840	5	340	3,800	6	350	4,300	8
さやいんげん	271	2,240	8	275	2,400	12	280	2,600	14
なす	843	14,500	28	810	14,500	36	800	15,300	42
かぼちゃ	279	4,330	3	295	4,600	4	300	5,000	5
さやえんどう	111	944	5	115	1,000	6	120	1,100	8
ピーマン	86	1,310	2	80	1,300	3	80	1,400	3
葉茎菜類	2,555	63,234	62	2,625	67,100	85	2,670	71,500	110
ねぎ	444	10,400	16	475	11,200	22	480	11,700	26
はくさい	571	18,700	9	520	17,800	21	500	18,100	12
キャベツ	351	8,190	5	340	8,200	6	340	8,900	7
アスパラガス	258	861	5	280	1,100	9	300	1,500	14
ホウレン草	239	3,480	8	230	3,600	10	230	3,900	13
レタス	57	953	1	90	1,600	2	100	2,000	3
せいさい	467	19,300	12	490	21,700	17	500	23,100	20
食用ぎく	168	1,350	6	200	1,900	8	220	2,300	15
根菜類	3,016	78,400	51	2,930	77,500	66	2,920	78,400	73
だいこん	1,330	47,400	24	1,240	46,500	30	1,200	46,400	33
にんじん	150	1,770	1	140	1,700	1	140	1,900	2
ばれいしょ	727	17,200	10	705	16,900	13	700	17,400	15
ながいも	138	2,230	6	130	2,200	8	130	2,200	9
ごぼう	134	3,030	3	125	2,000	3	120	2,000	3
さといも	204	1,790	3	210	2,300	5	230	1,900	4
かぶ	333	4,980	4	380	5,900	6	400	6,600	7
その他	1,005	3,632	24	1,025	10,100	24	1,040	11,800	26

5 おわりに

以上、山形県の野菜生産の現状と将来の展望について概要を述べたが、米の輸入部分開放など農業を取り巻く情勢が厳しい中、山形が野菜の食料基地となりうるよう、生産者、関係機関が一体となり、目下努力しているところである。